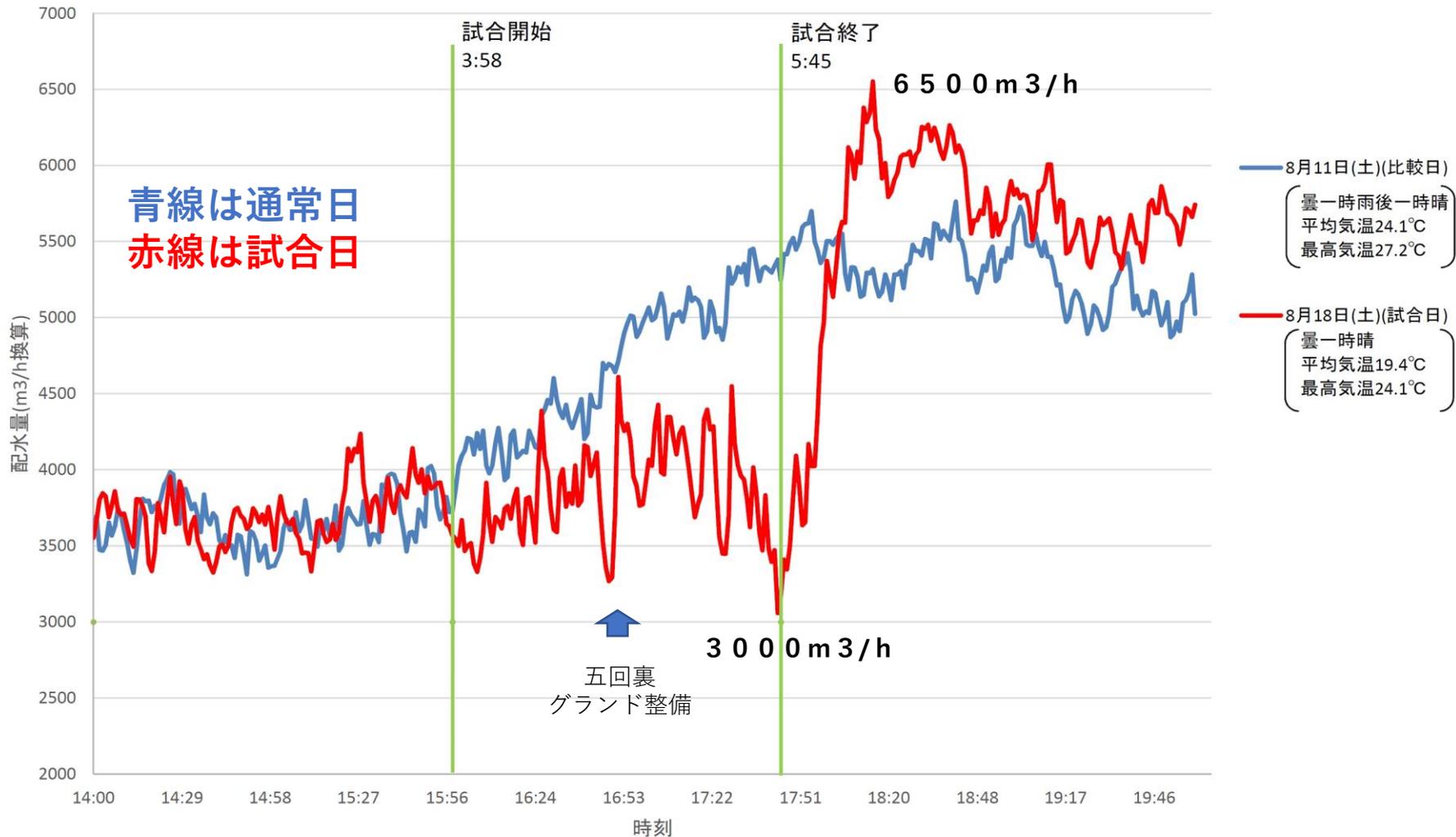


甲子園・準々決勝戦 金足農業の活躍と秋田市の水道配水量の変動

甲子園金足農業戦による配水量の変動
金足農業VS近江(平成30年8月18日)



解説：水道は社会生活を表す鏡である！

- この表は、甲子園球場 準々決勝8月18日、金足農業高校と近江高校との対戦時の秋田市内水道配水量の変動グラフである。青線は比較日(8/11)で赤線が試合日である。
- 試合開始までは、日常の水需要であり、試合開始後から、普段は夕食の準備のために需要が増加するが、試合日は横ばいであり、秋田市民はTVにくぎ付け、赤線が下がっているのは金足農（後攻め）の攻撃時、試合途中でピークが上がっているのは、近江攻撃の番である、つまり市民は金足農の攻撃が終わるとトイレに駆け込むのである。グラフの中央の大きなピークは5回裏のグラウンド整備である。
- 圧巻は金足農が一点を追う9回裏、無死満塁から斎藤の三前2ランスクイズで、まさかまさかの逆転サヨナラ勝ちである。試合終了時配水量3000トン／時であったのが、30分後には、倍以上の6500トン／時に激増している。
- 秋田市水道局は、このような水量や圧力変動に対応すべく日夜努力しているのだ。

【資料提供、秋田市上下水道局】